

授 業 計 画 (シラバス)

| | | |
|---|---|------|
| [科目名] コミュニケーション | [授業形態] 対面授業 (遠隔及び登校) | 選択必修 |
| [対象学科・学年・時期] オンライン通信科1年 通年 | [授業回数・時間数] 4単位 60時間 (30コマ) (うち登校による授業18時間) | |
| [担当教員および実務経験] 櫛野 友則 ・ 星野 和幸 | | |
| [授業の目的] コミュニケーションは対人関係の基本であることから、講義や演習を通して、その知識や技術を学び、自分の考えを表現する方法、良好な人間関係の築き方などのスキルを身に付けることを目的とする。また、良好なコミュニケーションの環境について学び、福祉コミュニケーションの観点から、対象者の理解等を深め、実践できるようになることを目的とする。 | | |
| [授業の方法および概要] 到達目標に沿って、主としてグループワーク等のアクティブラーニング手法を使ったコミュニケーション演習を実施し、内容を修得する。また、演習の前後にテキストやプリントを用いた講義で補足を行うことで、内容の理解を促進する。 | | |
| [授業の到達目標] <ul style="list-style-type: none"> ・ コミュニケーションの意義を踏まえ、集団における良好な人間関係の構築に努めることができる。 ・ 他者の発言を積極的に傾聴することができる。 ・ 自分自身が発言する際、相手の気持ちや場面に応じて発する言葉を選択することができる。 ・ 他者とのコミュニケーションにおいて、自分自身の長所・短所を分析することができる。 | | |
| [成績評価の方法と基準] <p>教科出席率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 考查点(75%) <ul style="list-style-type: none"> ・ 到達目標の修得状況を測るために、各単元で課した課題を提出させ、それを総合的に評価する。 ・ 平常点(25%) <ul style="list-style-type: none"> ・ 指定された課題を実施し、その内容が適切である。 ・ 授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。 | | |
| [使用テキスト・参考文献] なし | | |
| [備考] | | |

| [授業計画(内容)] | |
|---------------------------------------|--|
| | 【対面授業】 |
| 1 | 傾聴の基本① (アクティブリスニング) |
| 2 | 傾聴の基本② (コミュニケーションの意義) |
| 3 | 傾聴の基本③ (笑顔とうなずき) |
| 4 | 傾聴の基本④ (拡張話法) |
| 5 | 聴き方と人間関係① (人間関係を意識した傾聴) |
| 6 | 聴き方と人間関係② (価値観の共有) |
| 7 | 聴き方と人間関係③ (解決策の導き方) |
| 8 | 聴き方と人間関係④ (傾聴と他者理解) |
| 9 | 聴き方と人間関係⑤ (ジレンマ) |
| 10 | ビジネスコミュニケーション① |
| 11 | ビジネスコミュニケーション② |
| 12 | 対話の基本① (対話と他者理解) |
| 13 | 対話の基本② (ほめ方) |
| 14 | 対話の基本③ (好かれる話) |
| 15 | 対話の基本④ (他者を巻き込む話し方) |
| 16 | 対話の基本⑤ (話題の共有) |
| 17 | 話し方と人間関係① (相手の感情に寄り添う話し方) |
| 18 | 話し方と人間関係② (問題の共有化) |
| 19 | 話し方と人間関係③ (励ましのリスク) |
| 20 | コミュニケーションと対人援助① |
| 21 | コミュニケーションと対人援助② |
| | 【登校による授業】 |
| 22 | コミュニケーションとコミュニケーション効果 |
| 23 | トータルコミュニケーション |
| 24 | アクティブリスニング |
| 25 | 受容と共感 |
| 26 | コミュニケーション技法① うなずきと相づち、繰り返し、明確化 |
| 27 | コミュニケーション技法② 要約、共感、開かれた質問 |
| 28 | リーダーシップ |
| 29 | 指示と助言と支持 |
| 30 | 科目修了試験 |
| 【単位課題】 | |
| 1 単位目 | 傾聴の基本...アクティブリスニングのとは何か、コミュニケーションの意義について、笑顔とうなずき、拡張話法について |
| 2 単位目 | 聴き方と人間関係...人間関係を意識した傾聴、価値観の共有、解決策の導き方、傾聴と他者理解、ジレンマ (主に対人援助におけるものに限る)、ビジネスコミュニケーションについて |
| 3 単位目 | 対話の基本...対話と他者理解、ほめ方、好かれる話、他者を巻き込む話し方、話題の共有について |
| 4 単位目 | 話し方と人間関係、相手の感情に寄り添う話し方、問題の共有化、励ましのリスク、コミュニケーションと対人援助について |
| 【科目修了試験】 | |
| 登校による授業で学んだ内容を適切に活用して他者とコミュニケーションを図る。 | |

授 業 計 画 (シラバス)

| | | |
|--|--|------|
| [科目名] Word実習 | [授業形態] 対面授業（遠隔及び登校による） | 選択必修 |
| [対象学科・学年・時期] オンライン通信科1年 通年 | [単位数及び授業時間数] 4単位 60時間（30コマ） （うち登校による授業12時間） | |
| [担当教員および実務経験] 星野 和幸 | | |
| [授業の目的] 企業団体の事務作業で必須であるパソコンの操作について、一般的な文書処理ソフトウェアとしてマイクロソフト社の『Word』の操作を習得する。操作習得の証明として、日検ワープロ検定取得が可能なスキルの獲得を目指す。 | | |
| [授業の方法および概要] <ul style="list-style-type: none"> ・ Windowsの基本的操作方法について操作しながら習得する。 ・ Wordの操作方法についての習得。段階を踏み操作しながら習得する。 ・ 文書作成練習の実施により操作を習熟する。 | | |
| [授業の到達目標] <ul style="list-style-type: none"> ・ Windowsの基本的な操作ができる。 ・ 文書データの読み込み・保存、印刷が適切にできる。 ・ 文書のページ設定（行数、1行あたりの文字数）が適切にできる。 ・ 文字入力（漢字変換）、文字および文字列の修飾が適切にできる。 ・ 作表、図表の挿入が適切にできる。 | | |
| [成績評価の方法と基準] 教科出席率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 考查点(75%) <ul style="list-style-type: none"> ・ 実技試験（文書作成）により期末考查を実施する。 ・ 平常点(25%) <ul style="list-style-type: none"> ・ 事前課題を期限までに提出し、その内容が課題に沿ったものである。 ・ 授業に積極的に参加し、周囲と協力しながらお互いの技能向上を目指している。 | | |
| [使用テキスト・参考文献] <ul style="list-style-type: none"> ・ 実教出版編集部編『30時間でマスター Word2013』実教出版、2014年 | | |
| [備考] 授業で使うテキストは、Windows8、Office2013を使用しているが、OS及びOfficeのバージョンに左右されない内容で授業を進める。 | | |

[授業計画(内容)]

| 【対面授業】 | |
|------------------|-----------------------------|
| 1 | Windowsの概要および操作の基本、タイピングの基礎 |
| 2 | Wordの操作①（文字入力、漢字変換） |
| 3 | Wordの操作②（タイピング練習①） |
| 4 | Wordの操作③（タイピング練習②） |
| 5 | Wordの操作④（タイピング練習③） |
| 6 | Wordの操作⑤（タイピング練習④） |
| 7 | Wordの操作⑥（タイピング練習⑤） |
| 8 | Wordの操作⑦（タイピング練習⑥） |
| 9 | Wordの操作⑧（基本的なビジネス文書の作成①） |
| 10 | Wordの操作⑨（基本的なビジネス文書の作成②） |
| 11 | Wordの操作⑩（基本的なビジネス文書の作成③） |
| 12 | Wordの操作⑪（表の作成①） |
| 13 | Wordの操作⑫（表の作成②） |
| 14 | Wordの操作⑬（表の作成②） |
| 15 | Wordの操作⑭（表を含むビジネス文書の作成①） |
| 16 | Wordの操作⑮（表を含むビジネス文書の作成②） |
| 17 | Wordの操作⑯（表の編集） |
| 18 | Wordの操作⑰（表を含むビジネス文書の作成③） |
| 19 | Wordの操作⑱（表を含むビジネス文書の作成④） |
| 20 | Wordの操作⑲（図の作成①） |
| 21 | Wordの操作⑳（図の作成②） |
| 22 | Wordの操作㉑（図の作成③） |
| 23 | Wordの操作㉒（図を含むビジネス文書の作成①） |
| 24 | Wordの操作㉓（図を含むビジネス文書の作成②） |
| 【登校による授業】 | |
| 25 | 日検ワープロ検定4級レベルの練習 |
| 26 | 日検ワープロ検定3級レベルの練習 |
| 27 | 日検ワープロ検定準2級レベルの練習 |
| 28 | 日検ワープロ検定2級レベルの練習 |
| 29 | 日検ワープロ検定準1級レベルの練習 |
| 30 | 科目修了試験（日検ワープロ検定3級レベル） |

授 業 計 画 (シラバス)

| | | |
|--|-------------------|-------------------------|
| [科目名] ビジネス実務 | [授業形態] 印刷教材による | 選択必修 |
| [対象学科・学年・時期] オンライン通信科 1年 通年 | | [単位数及び時間数] 4単位 180時間 |
| [担当教員および実務経験] 星野 和幸 | | |
| [授業の目的] 一般企業、福祉施設等で勤務する際に必要となる社会人としての意識、組織の構造、言葉遣い等のマナーや接遇、事務作業についての知識を学ぶ。知識習得の証明として、秘書技能検定3級の取得を目指す。 | | |
| [授業の方法および概要] 到達目標をもとに、テキストを使って学習を進め、単位課題によって到達目標の修得度を測定する。 秘書技能検定の受験を希望する場合は、検定前に秘書検定3級過去問題の答練を行う。 | | |
| [授業の到達目標] <ul style="list-style-type: none"> ・ 企業団体等の組織に所属する場合の意識や役割を理解できる。 ・ 日常会話レベルで敬語を使用することができる。 ・ 企業団体での基本的な接遇、慶事弔事のマナーを説明できる。 ・ ビジネス文書について、例を見ながら作成することができる。 ・ 事務・ファイリング作業で使用する文具機器類の名称・用途を答えることができる。 ・ 郵便(特殊取扱含)等の通信手段について、利用方法や長短所を答えることができる。 | | |
| [成績評価の方法と基準] <p>すべての単位課題の正答率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 考查点(100%) 到達目標の修得状況を測る <ul style="list-style-type: none"> ・ 科目修了試験による期末考查により算出する。 | | |
| [使用テキスト・参考文献] <ul style="list-style-type: none"> ・ 藤井充子『この1冊で決める!!秘書検定2・3級合格教本』新星出版社、2017年 ・ 実務技能検定協会『秘書検定3級過去問題集2023年版』早稲田教育出版、2023年 | | |
| [備考] | | |

[授業計画(内容)]

- 1 秘書の資質
- 2 職務知識
- 3 一般知識
- 4 職場と人間関係
- 5 敬語の種類
- 6 正しい敬語の使い方
- 7 接遇の表現
- 8 上手な話し方・聞き方、命令・指示の受け方、忠告・注意の受け方
- 9 苦情対応と断り方、わかりやすい報告と説明、依頼と説得のしかた
- 10 接遇の心構え、受付と取り次ぎ
- 11 受付と取り次ぎのケーススタディ
- 12 来客対応の常識（案内、席次、茶菓提供、見送り）
- 13 電話対応(受け方かけ方)
- 14 慶事・弔事に関する業務とマナー、贈答のしきたり、上書きと水引の結び方
- 15 会議の基礎知識
- 16 会議の準備、会議直前から会議後までの業務
- 17 ビジネス文書の基礎知識
- 18 社内文書の作成
- 19 社外文書の作成
- 20 社外文書・社交文書のきまりごと・慣用表現
- 21 メモのとり方
- 22 グラフの書き方
- 23 文書の受信・発信、メール・FAX送受信、郵便物の発信、「秘」扱い文書
- 24 ファイリングの基礎知識、名刺の整理、資料の収集と整理、
- 25 予定表の使い方、室内環境、オフィスレイアウト、オフィス機器・事務用品
- 26 秘書検定3級過去問題答練①
- 27 秘書検定3級過去問題答練②
- 28 秘書検定3級過去問題答練③
- 29 秘書検定3級過去問題答練④
- 30 秘書検定3級過去問題答練⑤

[単位課題]

単位課題1 秘書の資質、職務知識、一般知識

単位課題2 マナー・接遇

職場と人間関係、敬語の種類、正しい敬語の使い方、接遇の表現
上手な話し方・聞き方、命令・指示の受け方、忠告・注意の受け方
苦情対応と断り方、わかりやすい報告と説明、依頼と説得のしかた
接遇の心構え、受付と取り次ぎ、受付と取り次ぎのケーススタディ
来客対応の常識（案内、席次、茶菓提供、見送り）

| | |
|--------|--|
| | 電話応対(受け方かけ方)、慶事・弔事に関する業務とマナー 贈答のしきたり、上書きと水引の結び方 |
| 単位課題 3 | 技能① 会議の基礎知識、会議の準備、会議直前から会議後までの業務 ビジネス文書の基礎知識、社内文書の作成 社外文書の作成、社外文書・社交文書のきまりごと・慣用表現 メモのとり方、グラフの書き方 |
| 単位課題 4 | 技能② 文書の受信・発信、メール・FAX送受信、郵便物の発信 「秘」扱い文書、ファイリングの基礎知識、名刺の整理 資料の収集と整理、予定表の使い方、室内環境、オフィスレイアウト オフィス機器・事務用品 |

授 業 計 画 (シラバス)

| | | |
|--|--------------------------------|------|
| [科目名] 社会福祉の基礎 | [授業形態] 印刷教材による | 選択必修 |
| [対象学科・学年・時期] オンライン通信科 1年 通年 | [授業回数・時間数] 4単位 180時間 | |
| [担当教員および実務経験] 圓山 里子 障害当事者団体（NPO 法人）にて職場介助者及び事務局スタッフとして勤務。障害者サポートの市委託事業において 事業開設 スタッフとして勤務。四年制大学の社会福祉士養成コースにおいて 専任教員として勤務。 | | |
| [授業の目的] 社会福祉を各分野の概観からながめるのではなく、各分野に通じる基盤を「つかむ」ことによって、今後、社会福祉各科目を学ぶ上での基礎をつくる。 | | |
| [授業の方法および概要] 到達目標をもとに、テキストを使って学習を進め、単位課題によって到達目標の修得度を測定する。 | | |
| [授業の到達目標] <ul style="list-style-type: none"> ・ 社会福祉は社会福祉実践（援助論）と社会福祉政策（政策論）から構成されていることを理解する。 ・ 現代社会における生活を支える仕組み（家族・市場・社会サービス）のなかで、社会福祉はどのように位置づけられるのかを理解する。 ・ 福祉国家形成の歴史及び日本の社会福祉のあゆみを理解する。 ・ 社会福祉政策の運営の基本的な仕組みや考え方を、対象・方法・提供主体の側面から理解する。 | | |
| [成績評価の方法と基準] すべての単位課題の正答率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 考查点(100%) 到達目標の修得状況を測る ・ 科目修了試験による期末考查により算出する。 | | |
| [使用テキスト・参考文献] <ul style="list-style-type: none"> ・ 稲沢公一・岩崎晋也『社会福祉をつかむ 第3版』有斐閣、2019年（初版2008年） | | |
| [備考] なし | | |

| [授業計画(内容)] | |
|------------|----------------------------------|
| 1 | 社会福祉とは一友人を助けることとの違いは何か |
| 2 | 社会福祉政策と社会福祉実践 |
| 3 | 社会政策とは何か①：「家族」「市場」「社会サービス」と政府の調整 |
| 4 | 社会政策とは何か②：福祉レジームの3類型 |
| 5 | 社会福祉の補充性 |
| 6 | 社会福祉の固有性 |
| 7 | 福祉国家の形成①：国家による社会福祉政策の開始 |
| 8 | 福祉国家の形成②：民間部門の活動 |
| 9 | 福祉国家の形成③：ナショナル・ミニマムの提唱 |
| 10 | 福祉国家の形成④：ベヴァリッジ報告 |
| 11 | 福祉国家はどこへ行くのか①：福祉国家の危機 |
| 12 | 福祉国家はどこへ行くのか②：福祉国家の危機への対応 |
| 13 | 日本の社会福祉のあゆみ①：慈善事業から社会事業へ |
| 14 | 日本の社会福祉のあゆみ②：戦時厚生事業の時代 |
| 15 | 日本の社会福祉のあゆみ③：占領期の社会福祉 |
| 16 | 日本の社会福祉のあゆみ④：高度経済成長期 |
| 17 | 日本の社会福祉のあゆみ⑤：福祉制度の見直し期 |
| 18 | 日本の社会福祉のあゆみ⑥：福祉制度改革 |
| 19 | 社会福祉の対象：特定の人なのか、特定の問題なのか |
| 20 | 社会福祉における対象のとらえ方：社会的必要性（ニーズ） |
| 21 | 社会福祉の行財政① |
| 22 | 社会福祉の行財政② |
| 23 | 社会福祉の行財政③ |
| 24 | 社会福祉の供給体制① |
| 25 | 社会福祉の供給体制② |
| 26 | 社会福祉の供給体制③ |
| 27 | 社会福祉の供給体制④ |
| 28 | 社会福祉の担い手① |
| 29 | 社会福祉の担い手② |
| 30 | 社会福祉の担い手③ |
| [単位課題] | |
| 単位課題 1 | 現代社会における社会福祉の位置づけ、社会福祉の補充性と固有性 |
| 単位課題 2 | 社会福祉の発展過程 |
| 単位課題 3 | 社会的必要性（ニーズ）、社会福祉の行財政 |
| 単位課題 4 | 社会福祉の供給体制、社会福祉の担い手 |

授 業 計 画 (シラバス)

| | | |
|--|-------------------|-----------------------|
| [科目名] 高齢者の福祉 | [授業形態] 印刷教材による | 選択必修 |
| [対象学科・学年・時期] オンライン通信科 1年 通年 | | [単位数・時間数] 2単位 90時間 |
| [担当教員および実務経験] 星野 和幸 | | |
| [授業の目的] わが国における高齢者福祉の歴史や高齢者の生活を支える制度、高齢者の生活ニーズ、また家族の支援、介護人材、福祉機器など高齢者及び介護に係る様々な事項を体系的に学び、介護とソーシャルワークをつなぎ、多職種連携にも役立てる。 | | |
| [授業の方法および概要] 到達目標に沿って、テキストによる学習を進め、単位課題に取り組み、到達目標の修得度を測定する。 | | |
| [授業の到達目標] <ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者介護を取り巻く現状を説明できる ・ 介護の理念、原則、方法、過程を説明できる ・ 介護保険制度を中心とした高齢者及び介護をめぐる諸制度を説明できる ・ 介護現場におけるソーシャルワークについて説明できる ・ ケアワークとソーシャルワークの連携について説明できる | | |
| [成績評価の方法と基準] <p>すべての単位課題の正答率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 考查点(100%) <ul style="list-style-type: none"> ・ 到達目標の修得状況を測るために、科目修了試験により期末考查を実施する。 | | |
| [使用テキスト・参考文献] 最新・はじめて学ぶ社会福祉22 介護概論 (ミネルヴァ書房) | | |
| [備考] なし | | |

| [授業計画(内容)] | |
|------------|--|
| 1 | 現代社会における介護ニーズの増加と専門職 |
| 2 | 介護の歴史の変遷 |
| 3 | 介護を担う人材とその国際化 |
| 4 | 介護の理念と専門性 |
| 5 | 介護の原則と方法 |
| 6 | 介護の過程 |
| 7 | 介護に関する法律と施策の動向 |
| 8 | 家族支援 |
| 9 | 福祉機器・用具と住宅改修 |
| 10 | 障害のある人に対する支援過程 |
| 11 | 高齢者に対する支援過程 |
| 12 | 終末期における支援過程 |
| 13 | 入所型福祉施設における連携と役割 |
| 14 | 在宅福祉施設・事業所における連携と役割 |
| 15 | 医療施設における連携と役割 |
| [単位課題] | |
| 単位課題 1 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者介護を取り巻く現状 ・ 介護の理念、原則、方法、過程 ・ 高齢者及び介護をめぐる諸制度 |
| 単位課題 2 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 介護現場におけるソーシャルワーク ・ ケアワークとソーシャルワークの連携 |

授 業 計 画 (シラバス)

| | | |
|---|-------------------------------|------|
| [科目名] 障がい者の福祉 | [授業形態] 印刷教材による | 選択必修 |
| [対象学科・学年・時期] オンライン通信科 1年 通年 | [授業回数・時間数] 2単位 90時間 | |
| [担当教員および実務経験] 圓山 里子 障害当事者団体（NPO 法人）にて職場介助者及び事務局スタッフとして勤務。障害者サポートの市委託事業において事業開設スタッフとして勤務。四年制大学の社会福祉士養成コースにおいて専任教員として勤務。 | | |
| [授業の目的] 障害の社会モデルを障害者福祉の理念や概念が生まれた過程を辿りつつ、その理念の実現を目指す日本の障がい者福祉に関わる制度・施策を学ぶ。 | | |
| [授業の方法および概要] 到達目標に沿って、テキストによる学習を進め、単位課題に取り組み、到達目標の修得度を測定する。 | | |
| [授業の到達目標] <ul style="list-style-type: none"> ・ 障害の社会モデルの視点から障害者権利条約及び障害者差別解消法に規定されている合理的配慮について関係を説明できる。 ・ ノーマライゼーションの定義を説明できる。 ・ 障害者の生活支援における留意点をあげることができる。 ・ 障害者福祉の歴史的展開における基本的事項を列挙することができる。 ・ 障害者総合支援法に関わるサービスの基本的事項を覚えることができる。 ・ 障害者の生活を支える施策・制度を列挙することができる。 | | |
| [成績評価の方法と基準] すべての単位課題の正答率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 考查点(100%) <ul style="list-style-type: none"> ・ 到達目標の修得状況を測るために、科目修了試験により期末考查を実施する。 | | |
| [使用テキスト・参考文献] 山下幸子・竹端寛・尾崎剛志・圓山里子、『新・基礎からの社会福祉④ 障害者福祉 第3版』, ミネルヴァ書房, 2020年。 | | |
| [備考] なし | | |

| [授業計画(内容)] | |
|------------|---|
| 1 | 「障害」の社会モデルと合理的配慮 |
| 2 | 国際生活機能分類と保健・医療・福祉の専門職 |
| 3 | 障害者の生活実態～障害当事者から学ぶ～ |
| 4 | 様々な機能障害の理解と生活支援の留意点 |
| 5 | 障害者福祉の理念①ノーマライゼーション |
| 6 | 障害者福祉の理念②自立生活運動 |
| 7 | 障害者福祉の理念③エンパワメントとソーシャルワーク |
| 8 | 障害者福祉の歴史的展開①：戦後の制度史 |
| 9 | 障害者福祉の歴史的展開②：戦後の障害者運動 |
| 10 | 障害者福祉の歴史的展開と障害者権利条約 |
| 11 | 障害者総合支援法の概要 |
| 12 | 障害者総合支援法の給付内容 |
| 13 | 障害者の生活を支える施策①：基本法、年齢・障害種別に対応した法律 |
| 14 | 障害者の生活を支える施策②：虐待防止法、教育、バリアフリー |
| 15 | 障害者の生活を支える施策③：雇用と所得保障 |
| [単位課題] | |
| 単位課題 1 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 障害の社会モデルと国際生活機能分類 ・ ノーマライゼーション ・ 「自立」、自立生活、エンパワメント ・ 障害者の生活支援における留意点 |
| 単位課題 2 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 障害者福祉の歴史的展開 ・ 障害者権利条約と合理的配慮 ・ 障害者総合支援法に関わるサービスについて ・ 障害者の生活を支える施策・制度について |

授 業 計 画 (シラバス)

| | | |
|--|------------------------------|------|
| [科目名] 児童・家庭の福祉 | [授業形態] 印刷教材による | 選択必修 |
| [対象学科・学年・時期] オンライン通信科 1年 通年 | [単位数・時間数] 2単位 90時間 | |
| [担当教員および実務経験] 星野 和幸 | | |
| [授業の目的] 児童福祉の基礎知識を習得し、大学のレポート学習及び国家試験の土台を形成する。 また児童の置かれているさまざまな問題について考える機会をつくる。 | | |
| [授業の方法および概要] 到達目標に沿って、テキストによる学習を進め、単位課題に取り組み、到達目標の修得度を測定する。 | | |
| [授業の到達目標] <ul style="list-style-type: none"> ・ 児童・家庭の生活実態とこれを取り巻く社会環境を理解し説明できる。 ・ 戦前・戦後の児童福祉の流れを把握することができる。 ・ 子どもの権利条約について理解し、その特徴を伝えることができる。 ・ 児童福祉法の制定の経緯・児童福祉の理念・児童福祉の対象を理解し説明できる ・ 児童福祉法に規定されている児童福祉施設（13種類）を答えることができる。それぞれの施設の内容を把握できる。 ・ 児童虐待の4つの種類を答えることができ、それぞれの種類の内容を把握できる。児童虐待防止法について理解できる。 ・ 発達障害児の現状、及びその支援体制について理解できる。 ・ 社会的養護について実施体制と今後の方向性について理解できる。 ・ 児童の貧困の現状について理解し、その対策（こども食堂）について説明できる。 ・ 児童相談所の役割について理解できる。 | | |
| [成績評価の方法と基準] すべての単位課題の正答率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 考查点(100%) <ul style="list-style-type: none"> ・ 到達目標の修得状況を測るために、科目修了試験により期末考查を実施する。 | | |
| [使用テキスト・参考文献] <ul style="list-style-type: none"> ・ 『社会福祉学習双書』編集委員会編著『社会福祉学習双書2023 第5巻 児童・家庭福祉』社会福祉法人 全国社会福祉協議会、2023年 | | |
| [備考] | | |

| [授業計画(内容)] | |
|------------|---|
| 1 | 児童家庭福祉の理念と基本的理解 |
| 2 | 子どもの人権・権利保障 |
| 3 | 児童・家庭の生活実態とこれを取り巻く社会環境 |
| 4 | 児童家庭福祉制度における関係機関と専門職の役割 |
| 5 | 母子保健 |
| 6 | 子育て支援・保育・児童健全育成 |
| 7 | スクールソーシャルワーカー |
| 8 | 子どもと家庭にかかわる貧困、女性の福祉 |
| 9 | 社会的養護 |
| 10 | 児童虐待への対応 |
| 11 | 児童にかかわる様々な法体制 |
| 12 | 児童虐待への対応① 児童虐待の定義と現状 |
| 13 | 児童虐待への対応② 児童虐待への対応 |
| 14 | 障害児福祉① 障害のとらえ方、現状、施策 |
| 15 | 障害児福祉② 障害児福祉における社会福祉専門職の役割 |
| [単位課題] | |
| 単位課題 1 | 児童家庭福祉の基本的理解 <ul style="list-style-type: none"> ・児童家庭福祉の理念と基本的理解 ・子どもの人権・権利保障 ・児童・家庭の生活実態とこれを取り巻く社会環境 ・児童家庭福祉制度における関係機関と専門職の役割 |
| 単位課題 2 | 児童家庭福祉の支援の実際 <ul style="list-style-type: none"> ・母子保健 ・子育て支援・保育・児童健全育成 ・スクールソーシャルワーカー ・子どもと家庭にかかわる貧困、女性の福祉 ・社会的養護 ・児童虐待への対応 ・障害児福祉 |

授 業 計 画 (シラバス)

| | | |
|---|-----------------------|------|
| [科目名] 手話 | [授業形態] 印刷教材による | 選択必修 |
| [対象学科・学年・時期] オンライン通信科 1年 通年 | [単位数・時間数] 2単位 90時間 | |
| [担当教員および実務経験] 白倉 啓子 | | |
| [授業の目的] 手話技能検定4級の取得を目指せるレベルの手話技能を身に付ける。また言語の1つである手話の基礎知識を習得することで、コミュニケーション能力の幅を広げ、福祉の現場でも活用できるようにする。 | | |
| [授業の方法および概要] 到達目標に沿って、テキストによる学習を進め、単位課題に取り組み、到達目標の修得度を測定する。 | | |
| [授業の到達目標] <ul style="list-style-type: none"> ・ 指文字50音の意味が理解でき、表現することができる。 ・ 6級レベルの基本単語を理解し、表現できる。 (あいさつ・天候・疑問・数字・曜日・日・週・年・人・家族・色・方角・感情・動作) ・ 5級レベルの基本単語を理解し、表現できる。 (質問と時間・自然に関する単語と家族・仕事・趣味・程度を示す単語・基本動詞・形容詞) ・ 4級レベルの単語を理解し、表現できる。 (人間・食べ物・動物・生活・スポーツ・感情・趣味・乗り物・形容詞・副詞・社会・施設・数・地名・動詞) | | |
| [成績評価の方法と基準] すべての単位課題の正答率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 考查点(100%) <ul style="list-style-type: none"> ・ 到達目標の修得状況を測るために、科目修了試験により期末考查を実施する。 | | |
| [使用テキスト・参考文献] <ul style="list-style-type: none"> ・ NPO手話技能検定協会著『改訂版 手話技能検定公式テキスト3・4級』日本能率協会マネジメントセンター、2010年 | | |
| [備考] 希望者は手話技能検定4級を受験できる (Web試験：9月と3月実施予定)。 | | |

| | |
|------------|----------|
| [授業計画(内容)] | |
| 1 | 指文字(50音) |

| | |
|----|---------------------------------------|
| 2 | 6級レベルの基本単語① (あいさつ・天候・疑問) |
| 3 | 6級レベルの基本単語② (数字・曜日・日・週・年・人・家族・色・方角) |
| 4 | 6級レベルの基本単語③ (感情・動作) |
| 5 | 5級レベルの基本単語① (質問と時間) |
| 6 | 5級レベルの基本単語② (自然に関する単語と家族・仕事・趣味・程度) |
| 7 | 5級レベルの基本単語③ (基本動詞・形容詞) |
| 8 | 前半のまとめ (指文字、6級レベル・5級レベルの基本単語の復習) |
| 9 | 4級レベルの単語と例文 (単語1 : 人間・食べ物・動物) |
| 10 | 4級レベルの単語と例文 (単語2 : 生活・スポーツ・感情・趣味・乗り物) |
| 11 | 4級レベルの単語と例文 (単語3 : 形容詞・副詞) |
| 12 | 4級レベルの単語と例文 (単語4 : 社会・施設・数) |
| 13 | 4級レベルの単語と例文 (単語5 : 地名) |
| 14 | 4級レベルの単語と例文 (単語6 : 動詞) |
| 15 | 後半のまとめ (4級レベルの単語と例文の復習) |

[単位課題]

| | |
|--------|---|
| 単位課題 1 | 指文字、6級レベル・5級レベルの基本単語 <ul style="list-style-type: none"> ・ 指文字 ・ 6級レベルの基本単語 (あいさつ・天候・疑問・数字・曜日・日・週・年・人・家族・色・方角・感情・動作) ・ 5級レベルの基本単語 (質問と時間・自然に関する単語と家族・仕事・趣味・程度を示す単語・基本動詞・形容詞) |
| 単位課題 2 | 4級レベルの単語と例文 <ul style="list-style-type: none"> ・ 単語1 : 人間・食べ物・動物 ・ 単語2 : 生活・スポーツ・感情・趣味・乗り物 ・ 単語3 : 形容詞・副詞 ・ 単語4 : 社会・施設・数 ・ 単語5 : 地名 ・ 単語6 : 動詞 |

授 業 計 画 (シラバス)

| | | |
|--|-----------------------|------|
| [科目名] 心理学の基礎 | [授業形態] 印刷教材による | 選択必修 |
| [対象学科・学年・時期] オンライン通信科 1年 通年 | [単位数・時間数] 2単位 90時間 | |
| [担当教員および実務経験] 井畑 友佳 | | |
| [授業の目的] 「心理学とはどのような学問なのか?」「どのような種類の心理学があるのか?」「どのようなことに役立つのか?」など日常生活における身近な疑問を通して、人間の心の働きやしぐみについての全体像を学ぶ。この授業では、数多くある心理学の分野を広く学んでいくことを目的とする。 | | |
| [授業の方法および概要] 到達目標に沿って、テキストによる学習を進め、単位課題に取り組み、到達目標の修得度を測定する。 | | |
| [授業の到達目標] ・心理学を実学と捉え、心理学諸理論を理解し説明できる。 ・人の心の基本的な仕組みと働きについて理解し説明できる。 ・心理学を学び理解したことを実生活に応用できる。 | | |
| [成績評価の方法と基準] すべての単位課題の正答率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 ・ 考查点(100%) ・ 到達目標の修得状況を測るために、科目修了試験により期末考查を実施する。 | | |
| [使用テキスト・参考文献] 齊藤勇編『図説心理学入門 [第2版]』誠信書房、2005年 | | |
| [備考] | | |

| [授業計画(内容)] | |
|------------|------------------------------------|
| 1 | 第1章 知覚と認知：図と地、意味的反転図形、群化の法則について |
| 2 | 第1章 知覚と認知：恒常性の意味、注意、カクテルパーティ効果 |
| 3 | 第2章 欲求と感情：欲求の種類、マズローの欲求階層説について |
| 4 | 第2章 欲求と感情：フラストレーションとコンフリクトについて |
| 5 | 第3章 学習・思考・記憶：古典的条件づけ、オペラント条件づけについて |
| 6 | 第3章 学習・思考・記憶：試行錯誤学習と洞察学習について |
| 7 | 第4章 発達と教育：発達の概念、発達の規定因、各時期の特徴について |
| 8 | 第4章 発達と教育：発達と教育に関わる問題について |
| 9 | 第5章 性格と異常心理：統合失調症、躁うつ病、神経症について |
| 10 | 第5章 性格と異常心理：精神分析理論、行動理論、自己理論について |
| 11 | 第6章 対人心理と社会心理：対人認知、対人関係について |
| 12 | 第6章 対人心理と社会心理：社会的態度、状況の力について |
| 13 | 第7章 脳と生理心理学：脳の働きと意識、睡眠について |

| | |
|---------------|--|
| 14 | 第8章 臨床心理学と心理療法：研究者が考える心の構造について |
| 15 | 第8章 臨床心理学と心理療法：カウンセリング技法について |
| [単位課題] | |
| 単位課題 1 | 第1章～第4章に関する内容 ・基本的な用語（テキストで太字となっている部分を中心） ・用語に関する説明部分 ※用語問題、正誤問題、穴埋め問題を出題 |
| 単位課題 2 | 第5章～第8章に関する内容 ・基本的な用語（テキストで太字となっている部分を中心） ・用語に関する説明部分 ※用語問題、正誤問題、穴埋め問題を出題 |

授 業 計 画 (シラバス)

| | | |
|--|------------------------------|------|
| [科目名] 生涯発達心理学 | [授業形態] 印刷教材による | 選択必修 |
| [対象学科・学年・時期] オンライン通信科 1年 通年 | [単位数・時間数] 2単位 90時間 | |
| [担当教員および実務経験] 久住 雅史 | | |
| [授業の目的] 「人が発達する」ということや発達する期間、発達の 要因となるものについて考えを深める。また、子ども、大人、高齢者といった年齢区分ごとの理解に留まらず「生涯」という視点を活かして「これまで・現在・これからのつながり」と「積み重ね」を キーワードとして 考えながら人の発達について深く学ぶ。 | | |
| [授業の方法および概要] 到達目標に沿って、テキストによる学習を進め、単位課題に取り組み、到達目標の修得度を測定する。 | | |
| [授業の到達目標] <ul style="list-style-type: none"> ・ 発達の過程の中で、認知機能・感情・自己・社会性・対人関係などの発達の諸側面がどのように変化 していくか説明することができる。 ・ 幼児期、青年期、老年期といった発達の各時期の特徴を簡潔に説明することができる。 ・ 発達心理学で用いられる基本的な概念、用語を理解し、自分および周りにいる人々の姿・行動から事例として適切なものを選択して具体的に説明することができる。 | | |
| [成績評価の方法と基準] すべての単位課題の正答率が 80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 考查点(100%) <ul style="list-style-type: none"> ・ 到達目標の修得状況を測るために、科目修了試験により期末考查を実施する。 | | |
| [使用テキスト・参考文献] 山岸明子著『こころの旅 発達心理学入門』 新曜社、2011年 | | |
| [備考] | | |

| [授業計画(内容)] | |
|------------|--|
| 1 | 第1章 発達とは何か、発達心理学とは何か① 発達を学ぶ意義と発達とは？ |
| 2 | 第1章 発達とは何か、発達心理学とは何か② 発達段階と発達課題について |
| 3 | 第2章 発達を規定するもの① 発達の規定因について |
| 4 | 第2章 発達を規定するもの② 発達研究 |
| 5 | 第3章 乳児期－母子関係の成立① 生理的早産 |
| 6 | 第3章 乳児期－母子関係の成立② 母子間の相互作用 |
| 7 | 第4章 幼児期－自立の時期 自我の芽生えについて理解する |
| 8 | 第5章 乳幼児期－その様々な発達① ことばの発達について理解する |
| 9 | 第5章 乳幼児期－その様々な発達② ピアジェの発達段階から理解する |
| 10 | 第6章 児童期 認知の発達について、ギャングエイジ、自我の発達 |
| 11 | 第7章 青年期 青年期に起こる変化がわかる、自我同一性 |
| 12 | 第7章 青年期 青年期の間関係、現代青年の問題行動 |
| 13 | 第8章 成人期、そして老年期① 成人期の発達課題の特徴 |
| 14 | 第8章 成人期、そして老年期② 老年期の特徴について理解する |
| 15 | 補章 発達障害について 発達障害の種類と特徴を知る |
| [単位課題] | |
| 単位課題 1 | 第1章～第5章に関する内容 ・基本的な用語 ・用語に関する説明部分 ※用語問題、正誤問題、穴埋め問題を出題 |
| 単位課題 2 | 第6章～補章に関する内容 ・基本的な用語 ・用語に関する説明部分 ※用語問題、正誤問題、穴埋め問題を出題 |

授 業 計 画 (シラバス)

| | | |
|---|-------------------------|------|
| [科目名] カウンセリング | [授業形態] 印刷教材による | 選択必修 |
| [対象学科・学年・時期] オンライン通信科 1年 通年 | [単位数・時間数] 4単位 180時間 | |
| [担当教員および実務経験] 井畑 友佳 | | |
| [授業の目的] カウンセリングの基礎知識およびピアヘルパーについての知識を十分に身につけることを目的とする。また、講義や実技の学習を通して得た知識を日常生活の中で活かせるように考えていくことも目的の1つとする。 | | |
| [授業の方法および概要] 到達目標に沿って、テキストによる学習を進め、単位課題に取り組み、到達目標の修得度を測定する。 | | |
| [授業の到達目標] ・ピアヘルパーについての知識を十分にもつこと。 ・ピアヘルパーの活動を行う意志をもち実行できること。 | | |
| [成績評価の方法と基準] すべての単位課題の正答率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 考查点(100%) 到達目標の修得状況を測るために、科目修了試験により期末考查を実施する。 | | |
| [使用テキスト・参考文献] ・日本教育カウンセラー協会編『新版 ピアヘルパーハンドブック』図書文化社、2023年 ・日本教育カウンセラー協会編『ピアヘルパーワークブック』図書文化社、2002年 | | |
| [備考] 希望者はピアヘルパー認定試験を受験できる（1月実施予定）。 | | |

| [授業計画(内容)] | |
|------------|-------------------------------|
| 1 | 第1章：構成的グループエンカウンター |
| 2 | 第1章：エンカウンターのねらい、エンカウンター実施の留意点 |
| 3 | 第1章：カウンセリングの定義と略史と必要性 |
| 4 | 第1章：カウンセリングの種類 |
| 5 | 第1章：ピアヘルピングの関係領域 |
| 6 | 第1章：ピアヘルピングのプロセス「リレーションづくり」 |
| 7 | 第1章：ピアヘルピングのプロセス「問題の把握」 |
| 8 | 第1章：ピアヘルピングのプロセス「問題の解決」 |
| 9 | 第1章：ピアヘルパーのパーソナリティ |
| 10 | 第1章：カウンセリングの動向 |
| 11 | 第2章：ピアヘルピングの言語的技法（1） |
| 12 | 第2章：ピアヘルピングの言語的技法（2） |
| 13 | 第2章：ピアヘルピングの非言語的技法（1） |
| 14 | 第2章：ピアヘルピングの非言語的技法（2） |
| 15 | 第2章：対話上の諸問題への対処法 |
| 16 | 第2章：面接の切り上げ方、私的感情、抵抗、沈黙について |

| | |
|----|--------------------------------------|
| 17 | 第2章：問題への対処法～リファーマー、ケースワーク、コンサルテーション～ |
| 18 | 第2章：問題への対処法～ピアスーパービジョン、具申、個別ヘルピング～ |
| 19 | 第2章：ピアヘルパーの心構えについて |
| 20 | 第2章：ヘルピングスキルの上達法 |
| 21 | 第3章：ピアヘルパーの活動許容範囲と留意点 |
| 22 | 第3章：学業領域～授業がつまらない、授業についていけない～ |
| 23 | 第3章：進路領域～進路の意味、自己実現～ |
| 24 | 第3章：友人領域～心理的離乳、ギブアンドテイク、自己開示～ |
| 25 | 第3章：グループ領域～グループとは何か、グループのまとめ方～ |
| 26 | 第3章：グループ領域～グループの動かし方、リーダーの資質と留意点～ |
| 27 | 第3章：関係修復領域～両方の了承、両方の勝利感～ |
| 28 | 第3章：関係修復領域～完全な和解を期待しないこと～ |
| 29 | 第3章：心理領域～考え方を検討する、状況を変える～ |
| 30 | 第3章：心理領域～事実の確認、自己理解のために～ |

[単位課題]

| | |
|--------|--|
| 単位課題 1 | <p>第1章に関する内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本的な用語（認定試験で出題されやすいところをピックアップ） ・用語に関する説明部分 <p>※用語問題、正誤問題、穴埋め問題を出題</p> |
| 単位課題 2 | <p>第1章～第2章に関する内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本的な用語（認定試験で出題されやすいところをピックアップ） ・用語に関する説明部分 <p>※用語問題、正誤問題、穴埋め問題を出題</p> |
| 単位課題 3 | <p>第2章に関する内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本的な用語（認定試験で出題されやすいところをピックアップ） ・用語に関する説明部分 <p>※用語問題、正誤問題、穴埋め問題を出題</p> |
| 単位課題 4 | <p>第3章に関する内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本的な用語（認定試験で出題されやすいところをピックアップ） ・用語に関する説明部分 <p>※用語問題、正誤問題、穴埋め問題を出題</p> |

授 業 計 画 (シラバス)

| | | |
|---|---|------|
| [科目名] 介護と福祉A | [授業形態] 印刷教材及び対面授業による | 選択必修 |
| [対象学科・学年・時期] オンライン通信科 2年 通年 | [単位数・時間数] 5単位 150時間 (うち対面授業20時間) | |
| [担当教員および実務経験] 須田 恵子 看護職として実務経験20年 | | |
| [授業の目的] <ul style="list-style-type: none"> ・介護職が感じられる仕事のやりがいや魅力について考えることで、人とのつながりや専門的な知識やスキルの習得の必要性、社会貢献について深く理解する。 ・チームケアにおける介護職員としての心得について考えることで、医師や看護師、ソーシャルワーカーなど、多職種で構成されたチームで行っていることが確認できる。その中で自分の役割や責任を理解する、適切なタイミングで情報共有を行うことが重要であることを学ぶ。 ・利用者とコミュニケーションを取るときに介護職はどのような点を意識するのかを振り替えることによって、聞くことの重要性や丁寧な言葉使い、視線を合わせて自らの姿勢や表情も意識が必要になることが理解する。 ・利用者に対して自立支援を促す理由を考えることで利用者には、自分自身の生活について自己決定権があることや、自分の生活に責任を持ち、人間らしい生活を送ることの大切さを学ぶ。 ・利用者中心のケアを提供するために、介護福祉士が持つべき資質やスキル介護職員としての心得として、役割分担の理解、コミュニケーション能力の高さ、タスク管理能力の磨き、柔軟な対応力、患者や利用者の尊厳を尊重する姿勢を知る。 | | |
| [授業の方法および概要] 到達目標に沿って、単位課題に取り組み、到達目標の修得度を測定する。 | | |
| [授業の到達目標] <ul style="list-style-type: none"> ・介護職が感じられる仕事のやりがいや魅力について考えることが出来る。 ・チームケアにおける介護職員としての心得について考えることが出来る。 ・利用者に対して自立支援を促す理由を考えることが出来る。 ・利用者とコミュニケーションを取るときに介護職はどのような点を意識するのかを振り替えることができる。 ・利用者中心のケアを提供するために、介護福祉士が持つべき資質を考えることが出来る。 | | |
| [成績評価の方法と基準] 以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 検査点(100%) <ul style="list-style-type: none"> ・ 到達目標の修得状況を測るために、単位課題により期末検査を実施する。 | | |
| [使用テキスト・参考文献] なし | | |
| [備考] なし | | |

| [対面による授業の計画(内容)] | |
|------------------|---|
| 1 | 単位課題1に関する内容の解説 |
| 2 | 単位課題1の取り組み状況の確認と補足説明 |
| 3 | 単位課題2に関する内容の解説 |
| 4 | 単位課題2の取り組み状況の確認と補足説明 |
| 5 | 単位課題3に関する内容の解説 |
| 6 | 単位課題3の取り組み状況の確認と補足説明 |
| 7 | 単位課題4に関する内容の解説 |
| 8 | 単位課題4の取り組み状況の確認と補足説明 |
| 9 | 単位課題5に関する内容の解説 |
| 10 | 単位課題5の取り組み状況の確認と補足説明 |
| [単位課題] | |
| 単位課題1 | <ul style="list-style-type: none"> ・介護職が感じられる仕事のやりがいや魅力について内容を自分の言葉で具体的にまとめよ。 (1000字以上・上限なし) |
| 単位課題2 | <ul style="list-style-type: none"> ・チームケアにおける介護職員としての心得とはどんなものか自分の言葉で具体的にまとめよ。 (1000字以上・上限なし) |
| 単位課題3 | <ul style="list-style-type: none"> ・利用者とコミュニケーションを取るときに介護職はどのような点を意識しなければならないのかを自分の言葉で具体的にまとめよ。 (1000字以上・上限なし) |
| 単位課題4 | <ul style="list-style-type: none"> ・利用者に対して自立支援を促す理由についてを自分の言葉で具体的にまとめよ。 (1000字以上・上限なし) |
| 単位課題5 | <ul style="list-style-type: none"> ・利用者中心のケアを提供するために、介護福祉士が持つべき資質やスキルについて自分の言葉で具体的にまとめよ。 (1000字以上・上限なし) |

授 業 計 画 (シラバス)

| | | |
|--|--|------|
| [科目名] 介護と福祉B | [授業形態] 印刷教材及び対面授業による | 選択必修 |
| [対象学科・学年・時期] オンライン通信科 2年 通年 | [単位数・時間数] 5単位 150時間 (うち対面授業20時間) | |
| [担当教員および実務経験] 郷原 淳子 (介護兼相談業務 10年・介護支援専門員 6年) | | |
| [授業の目的] <ul style="list-style-type: none"> ・ 認知症の利用者とコミュニケーションをとる時に大切な事はなにか考えることができ、相手の状態や感情を考慮しながら、適切な方法で話すことができる。 ・ 利用者の羞恥心に配慮した排泄介助について考えることで、利用者の尊厳や安全、心理的なサポートに配慮する必要性を理解することができる。 ・ 高齢者の生活支援に必要な技術とは何かについて考えることで、高齢者の健康や安全、生活の質を改善するための根拠を学ぶことができる。 ・ 利用者の生活をより良い方向へ導くために、根拠に基づいた介護を実践する必要性を考える。科学的に検証された介入方法や支援方法を用い、利用者の生活の質の改善ができることを学ぶ。 ・ 利用者中心のケアとは何かを考えることで、利用者の自己決定を尊重し、利用者が満足できるケアを提供することが理解できる。 | | |
| [授業の方法および概要] 到達目標に沿って、単位課題に取り組み、到達目標の修得度を測定する。 | | |
| [授業の到達目標] <ul style="list-style-type: none"> ・ 認知症の利用者とコミュニケーションをとる時に大切な事について考えることができる ・ 利用者の羞恥心に配慮した排泄介助について理解することができる。 ・ 高齢者の生活支援に必要な技術とは何か理解することができる。 ・ 利用者の生活をより良い方向へ導くために、根拠に基づいた介護を実践する必要性について理解することができる。 ・ 利用者中心のケアとは何か考えることができる | | |
| [成績評価の方法と基準] <p>以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 考查点(100%) <ul style="list-style-type: none"> ・ 到達目標の修得状況を測るために、単位課題により期末考查を実施する。 | | |
| [使用テキスト・参考文献] なし | | |
| [備考] なし | | |

| [対面による授業の計画(内容)] | |
|------------------|--|
| 1 | 単位課題1に関する内容の解説 |
| 2 | 単位課題1の取り組み状況の確認と補足説明 |
| 3 | 単位課題2に関する内容の解説 |
| 4 | 単位課題2の取り組み状況の確認と補足説明 |
| 5 | 単位課題3に関する内容の解説 |
| 6 | 単位課題3の取り組み状況の確認と補足説明 |
| 7 | 単位課題4に関する内容の解説 |
| 8 | 単位課題4の取り組み状況の確認と補足説明 |
| 9 | 単位課題5に関する内容の解説 |
| 10 | 単位課題5の取り組み状況の確認と補足説明 |
| [単位課題] | |
| 単位課題 1 | 認知症の利用者とコミュニケーションをとる時に大切な事について具体的にまとめよ。 (1000字以上・上限なし) |
| 単位課題 2 | 利用者の羞恥心に配慮した排泄介助について具体的にまとめよ。 (1000字以上・上限なし) |
| 単位課題 3 | 高齢者の生活支援に必要な技術とは何か、具体的にまとめよ。 (1000字以上・上限なし) |
| 単位課題 4 | 利用者の生活をより良い方向へ導くために、根拠に基づいた介護を実践する必要性について具体的にまとめよ。 (1000字以上・上限なし) |
| 単位課題 5 | 利用者中心のケアとは何か具体的にまとめよ。 (1000字以上・上限なし) |

授 業 計 画 (シラバス)

| | | |
|---|---|------|
| [科目名] 介護と福祉C | [授業形態] 印刷教材及び対面授業による | 選択必修 |
| [対象学科・学年・時期] オンライン通信科 2年 通年 | [単位数・時間数] 5単位 150時間 (うち対面授業20時間) | |
| [担当教員および実務経験] 油科 かすみ 介護職として実務経験5年 | | |
| [授業の目的] <ul style="list-style-type: none"> ・介護福祉の現状を把握すること 介護福祉に関する問題や課題、ニーズを理解することが、介護福祉を改善していく上で必要です。現在の介護保険制度や介護施設の状況、介護職員の人材不足など、現状を把握することで、改善策や施策の提言が可能である。 ・介護福祉の理念や目的を考えること 介護福祉の理念や目的を考えることで、どのような介護福祉が求められているのかを明確にし、介護福祉の方向性を示すことができる。 ・介護福祉の課題を解決するための施策を考えること 介護福祉には、高齢化や人口減少などの社会的な変化に伴い、様々な課題があります。介護福祉の課題を解決するためには、介護職員の人材確保や研修の充実、介護保険制度の見直しなど、様々な施策が必要となる。介護福祉を考察することで、これらの施策の提言や改善策の模索が可能となる。 ・介護福祉の将来像を描くこと 介護福祉は、今後ますます重要な課題となっていくことが予想される。介護福祉の将来像を描くことで、どのような社会が求められているのかを明確にすることができる。また、介護福祉に必要な施策や取り組みを考えることで、将来に向けた具体的な施策を考えていくことで具体的な将来像を描くことができる。 | | |
| [授業の方法および概要] 到達目標に沿って、単位課題に取り組み、到達目標の修得度を測定する。 | | |
| [授業の到達目標] <ul style="list-style-type: none"> ・介護福祉の現状を把握することができる ・介護福祉の理念や目的を考えることができる ・介護福祉の課題を解決するための施策を考えることができる ・介護福祉の将来像を描くことができる | | |
| [成績評価の方法と基準] 以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 考查点(100%) <ul style="list-style-type: none"> ・ 到達目標の修得状況を測るために、単位課題により期末考查を実施する。 | | |
| [使用テキスト・参考文献] なし | | |
| [備考] なし | | |

| [対面による授業の計画(内容)] | |
|------------------|---|
| 1 | 単位課題 1 に関する内容の解説 |
| 2 | 単位課題 1 の取り組み状況の確認と補足説明 |
| 3 | 単位課題 2 に関する内容の解説 |
| 4 | 単位課題 2 の取り組み状況の確認と補足説明 |
| 5 | 単位課題 3 に関する内容の解説 |
| 6 | 単位課題 3 の取り組み状況の確認と補足説明 |
| 7 | 単位課題 4 に関する内容の解説 |
| 8 | 単位課題 4 の取り組み状況の確認と補足説明 |
| 9 | 単位課題 5 に関する内容の解説 |
| 10 | 単位課題 5 の取り組み状況の確認と補足説明 |
| [単位課題] | |
| 単位課題 1 | <ul style="list-style-type: none"> レクリエーション支援における基本姿勢に触れ、自分が提供する際に大切にしたいと考える内容を自分の言葉で具体的にまとめよ。(1000 字以上・上限なし) |
| 単位課題 2 | <ul style="list-style-type: none"> 介護福祉士としてのさまざまな技術の中で、参考書籍を記し特に技術を高めたい内容をまとめよ。ただし、自分の意見と考えも具体的に示すこと。(1000 字以上・上限なし) |
| 単位課題 3 | <ul style="list-style-type: none"> 現代社会における高齢者福祉の課題を社会資源と結びつけ考察し、自身の考えをまとめよ。(1000 字以上・上限なし) |
| 単位課題 4 | <ul style="list-style-type: none"> 高齢者にみられる心理的特徴や抱える感情・不安を踏まえ、自身がどのように支援を行っていくのか考えを具体的にまとめよ。(1000 字以上・上限なし) |
| 単位課題 5 | <ul style="list-style-type: none"> 福祉業界の抱える、燃え尽き症候群（バーンアウト）に対し、自分なりに原因分析をし解決策を提示しなさい。(1000 字以上・上限なし) |

授 業 計 画 (シラバス)

| | | |
|--|--|------|
| [科目名] 介護と福祉D | [授業形態] 印刷教材及び対面授業による | 選択必修 |
| [対象学科・学年・時期] オンライン通信科 2年 通年 | [単位数・時間数] 5単位 150時間 (うち対面授業20時間) | |
| [担当教員および実務経験] 桑原 恵利 (看護業務6年) | | |
| [授業の目的] <ul style="list-style-type: none"> ・ QOL を高めるために介護職が必要なことを考えることで、個別に合わせたケアを提供し快適な生活環境を整備することを理解することができる。 ・ 誤嚥性肺炎を予防し利用者が満足感がある食事介助について考えることで、食べやすさや好みに合わせた食事の提供や食事介助の注意点、誤嚥性肺炎予防策について理解することができる。 ・ 安全に配慮し利用者に満足してもらえる入浴介助を学ぶことで、個別のニーズを理解し利用者の健康状態の把握や、事前の準備が重要であることを理解できる。また、利用者とのコミュニケーションとプライバシーを守ることも十分に理解することができる。 ・ 通所施設の特性について学ぶことで、高齢者や障害者などの社会的に孤立しがちな人々が通うことで、社会への参加が可能となることが十分に理解することができる。 ・ 通所施設と他施設との連携の必要性と介護職としての役割について学ぶことで利用者の情報共有の必要性があり、介護職の役割は利用者の状況やケアプランなどの情報を適切に共有し、連携を円滑に進めることが必要であることを理解することができる。 | | |
| [授業の方法および概要] 到達目標に沿って、単位課題に取り組み、到達目標の修得度を測定する。 | | |
| [授業の到達目標] <ul style="list-style-type: none"> ・ QOL を高めるために介護職が必要なことを考えることができる。 ・ 誤嚥性肺炎を予防し利用者が満足感がある食事介助について理解することができる。 ・ 安全に配慮し利用者に満足してもらえる入浴介助について理解することができる。 ・ 通所施設の特性について学ぶことができる。 ・ 通所施設と他施設との連携の必要性と介護職としての役割について理解することができる。 | | |
| [成績評価の方法と基準] 以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 考查点(100%) <ul style="list-style-type: none"> ・ 到達目標の修得状況を測るために、単位課題により期末考查を実施する。 | | |
| [使用テキスト・参考文献] なし | | |
| [備考] なし | | |

| [対面による授業の計画(内容)] | |
|------------------|---|
| 1 | 単位課題 1 に関する内容の解説 |
| 2 | 単位課題 1 の取り組み状況の確認と補足説明 |
| 3 | 単位課題 2 に関する内容の解説 |
| 4 | 単位課題 2 の取り組み状況の確認と補足説明 |
| 5 | 単位課題 3 に関する内容の解説 |
| 6 | 単位課題 3 の取り組み状況の確認と補足説明 |
| 7 | 単位課題 4 に関する内容の解説 |
| 8 | 単位課題 4 の取り組み状況の確認と補足説明 |
| 9 | 単位課題 5 に関する内容の解説 |
| 10 | 単位課題 5 の取り組み状況の確認と補足説明 |
| [単位課題] | |
| 単位課題 1 | QOL を高めるために介護職が必要なこと (1000 字以上・上限なし) |
| 単位課題 2 | 誤嚥性肺炎を予防し利用者が満足感がある食事介助とは (1000 字以上・上限なし) |
| 単位課題 3 | 安全に配慮し利用者に満足してもらえる入浴介助とは (1000 字以上・上限なし) |
| 単位課題 4 | 通所施設の特徴 (1000 字以上・上限なし) |
| 単位課題 5 | 通所施設と他施設との連携の必要性和介護職としての役割について (1000 字以上・上限なし) |

授 業 計 画 (シラバス)

| | | |
|---|-------------------|------------------------|
| [科目名] 介護福祉士実務者研修 I | [授業形態] 印刷教材による | 選択必修 |
| [対象学科・学年・時期] オンライン通信科 2年 通年 | | [単位数・時間数] 9単位 405時間 |
| [担当教員および実務経験] 古川 美里 | | |
| [授業の目的] 介護福祉士実務者研修の資格取得を目指し、介護福祉士に必要となる人間の尊厳と自立、介護保険制度その他の社会の理解、介護の基本、コミュニケーション技術、生活支援技術、介護過程に関する知識を習得する。 | | |
| [授業の方法および概要] 到達目標に沿って、レポート課題に取り組み、到達目標の修得度を測定する。 | | |
| [授業の到達目標] <ul style="list-style-type: none"> ・人間の尊厳と自立について説明できる ・介護保険制度その他の社会の理解について説明できる ・介護の基本について説明できる ・介護に必要なコミュニケーション技術について説明できる ・介護に必要な生活支援技術について説明できる ・介護過程について説明できる ・こころとからだのしくみについて説明できる ・発達と老化について説明できる ・認知症の人への支援について説明できる ・障害のある人への支援について説明できる | | |
| [成績評価の方法と基準] 以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 考查点(100%) <ul style="list-style-type: none"> ・ 到達目標の修得状況を測るために、レポート提出により考查を実施する。 | | |
| [使用テキスト・参考文献] 『介護福祉士実務者研修テキスト 第4版』（中央法規出版） | | |
| [備考] なし | | |

| [授業計画(内容)] | |
|------------|--|
| 1 | 人間の尊厳と自立 |
| 2 | 社会の理解Ⅰ 介護保険制度 |
| 3 | 社会の理解Ⅱ ①社会と生活のしくみ ②地域共生社会の実現に向けた制度や施策 ③社会保険制度 ④障害者総合支援法 ⑤介護実践に関連する諸制度 |
| 4 | 介護の基本Ⅰ ①介護福祉士の役割と機能 ②尊厳の保持、自立に向けた介護の考え方と展開 ③介護福祉士の倫理 |
| 5 | 介護の基本Ⅱ ①介護を必要とする人の生活の理解と支援 ②介護実践における連携 ③介護における安全の確保とリスクマネジメント ④介護従事者の安全 |
| 6 | コミュニケーション技術 ①介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション ②介護におけるチームマネジメントとコミュニケーション |
| 7 | 生活支援技術Ⅰ ①生活支援とICF ②ボディメカニクスの活用 ③生活支援技術の基本 (移動・移乗、食事、入浴・清潔保持、排泄、着脱、整容、口腔清潔、家事援助等) ④環境整備、福祉用具活用等の視点 |
| 8 | 生活支援技術Ⅱ ①利用者の心身の状態に合わせた生活支援技術 ・環境整備 ・移動・移乗 ・食事 ・入浴・清潔保持 ・排泄 ・着脱、整容、口腔清潔 ・休息・睡眠 ・人生の最終段階における介護 ・福祉用具の活用 |
| 9 | 介護過程Ⅰ ①介護過程の基礎的知識 ②介護過程の展開 ③介護過程とチームアプローチ |
| 10 | 介護過程Ⅱ 介護過程の展開の実際 |

| | |
|----|--|
| 11 | こころとからだのしくみ I ・介護に関連した身体の仕組みの基礎的な理解 |
| 12 | こころとからだのしくみ II ①人間の心理 ②人体の構造と機能 ③身体の仕組み、心理、認知機能等を踏まえた介護における観察・アセスメントのポイント、連携等の留意点 |
| 13 | 発達と老化の理解 I ①老化に伴う心の変化と日常生活への影響 ②老化に伴うからだの変化と日常生活への影響 |
| 14 | 発達と老化の理解 II ①人間の成長・発達 ②老年期の発達・成熟と心理 ③高齢者に多い症状・疾病等と留意点 |
| 15 | 認知症の理解 I ①認知症ケアの理念 ②認知症による生活障害、心理・行動の特徴 ③認知症の人や家族へのかかわり・支援の基本 |
| 16 | 認知症の理解 II ①医学的側面から見た認知症の理解 ②認知症の人への支援の実際 |
| 17 | 障害の理解 I ①障害者福祉の理念 ②障害による生活障害、心理・行動の特徴 ③障害のある人や家族へのかかわり・支援の基本 |
| 18 | 障害の理解 II ①医学的側面から見た障害の理解 ②障害の特性に応じた支援の実際 |

[単位課題]

| | |
|--------|----------------|
| 単位課題 1 | 人間の尊厳と自立、社会の理解 |
| 単位課題 2 | 介護の基本 |
| 単位課題 3 | コミュニケーション技術 |
| 単位課題 4 | 生活支援技術 |
| 単位課題 5 | 介護過程 |
| 単位課題 6 | こころとからだのしくみ |
| 単位課題 7 | 発達と老化の理解 |
| 単位課題 8 | 認知症の理解 |
| 単位課題 9 | 障害の理解 |

授 業 計 画 (シラバス)

| | | |
|---|--|------|
| [科目名] 介護福祉士実務者研修Ⅱ | [授業形態] 対面授業（遠隔及び登校による） | 選択必修 |
| [対象学科・学年・時期] オンライン通信科 2年 通年 | [単位数・時間数] 3単位 45時間 (うち対面授業45時間) (うち登校による授業8時間) | |
| [担当教員および実務経験] 古川 美里 | | |
| [授業の目的] 介護福祉士実務者研修の資格取得を目指し、介護福祉士に必要となる介護過程に関する知識と技術を習得する。 | | |
| [授業の方法および概要] 到達目標に沿って、対面授業により、到達目標の修得度を測定する。 | | |
| [授業の到達目標] <ul style="list-style-type: none"> ・介護過程の展開の実際を説明できる ・介護技術を適切に行うことができる ・自らの介護技術を適切に評価することができる | | |
| [成績評価の方法と基準] <p>以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 考查点(100%) <ul style="list-style-type: none"> ・ 到達目標の修得状況を測るために、実技課題により期末考查を実施する。 | | |
| [使用テキスト・参考文献] 『介護福祉士実務者研修テキスト 第4版』（中央法規出版） | | |
| [備考] なし | | |

[授業計画(内容)]

| | |
|-------|---------------------------------------|
| 1～19 | (以下は遠隔による授業) 介護過程の展開の実際 介護技術の評価 |
| 20～23 | (以下は登校による授業) 介護過程の展開の実際 介護技術の評価 |